しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」
学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

教育センターだより

令和５年 12 月　第１37号

島根県教育センター
島根県教育センター浜田教育センター
https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/

浜田教育センター教育相談スタッフ

子どもたちの「かかわりの力」は？

特別支援学級には在籍していなくても、特別な支援が必要な子どもや様々な特性のある子どもたちが各学級に増えていると感じられる先生方も多いのではないでしょうか。それに加え、この数年間のコロナ禍によるかかわりの制限もあり、各学級では子どもたち同士の人間関係づくりに苦慮しているとの声もききます。授業づくりにおいて、子どもの特性に応じた個別最適な学びが求められていますが、子どもたちが安心して安全に学ぶことができる環境づくりや仲間づくりも非常に重要です。

そんな中、先生方は学級づくりや仲間づくりについてどのように感じておられるのか、新任教職員研修、教職経験者研修にてアンケートにご協力いただきました。その一部をご紹介します。

Q. 現在、学級づくりや児童生徒の仲間づくりで難しさを感じておられるのはどんな点でしょう。

〈アンケートからの抜粋〉

- 生徒のコミュニケーションスキルの低下・児童同士の関わりの場の設定
- 自分の気持ちを上手く相手に伝える、受け止めて関わることが難しい
- 子ども同士の関係づくり、コミュニケーション能力の育成・言葉遣いが乱暴
- 生徒同士がつながることが難しい・生徒同士が人間関係を形成することの難しさ
- かかわりをもとうとする生徒が少なく、授業でのグループ学習がなかなか上手くいかない

浜田教育センター教育相談スタッフでは、今年度の共同研究として「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」と題し、その中で名城大学曽山先生が提唱されている「スリンプル・プログラム」について研究しています。６月の能力開発講座「学級づくり仲間づくり講座」の講義の中で曽山先生は「かかわりが人を癒やし、かかわりが人を育てる」と述べておられます。

このスリンプル・プログラムは子どもたちに「かかわりの機会・場」を安全な形で提供し、「かかわりの力」を育むことを目指しています。小・中・高の各学習指導要領の総則には、「学習や生活の基盤として、教師と児童（生徒）との信頼関係及び児童（生徒）相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること」が示されており、そのためのひとつの具体的方策となるのではと研究を進めています。

これをやればすぐに学級が変わるというものではありませんが、毎週１回１０分の〇〇タイムと、その時間と関連させる「各教科でのペア・グループワーク」を続けることによって、子どもたちの「かかわりの力」をじわじわと育んでいきます。県内で実際に取り組まれている学校では、成果が表れている学校もあります。うまくためのポイントなどやうまくいかないのはどういったところが課題となっているのかといったことも見つけることができればと考えています。

ご興味がおありの方、ご協力いただける先生方、是非お問い合わせください。

しまね教育魅力化ビジョン「ふるさと島根を学びの原点に　未来にはばたく　心豊かな人づくり」
学び続ける教職員の育成と校内の OJT を支援する教育センター

生徒指導に関する
校内研修がしたいな…

できます！島根県教育センターホームページで！

教育相談スタッフ
相談セクション

校内で　短時間で　初任者研修でも　選んで　組み合わせて

生徒指導にかかわる校内研修動画を作りました

シリーズ「生徒指導のなかではぐくむ」
① 自己存在感
② 共感的な人間関係
③ 自己決定
④ 安心感・安全感

シリーズ「不登校児童生徒への支援」
① 不登校対策につながる発達支持的生徒指導
② 不登校対策としての課題未然防止教育
③ 不登校対策における課題早期発見対応
④ 不登校児童生徒支援としての困難課題対応的生徒指導

シリーズ「居心地のよい学級づくり」
① スタートアップ学級づくり
② 学級づくりコンテンツ（1）
③ 学級づくりコンテンツ（2）
④ 学級での人間関係づくり

各プログラムは
15～20 分で
実施可能！

生徒指導や学級経営に関する動画が3シリーズ×各4本　全12プログラムあります
様々な場面で、ニーズに合わせて、ご活用いただければという思いを込めて作りました

島根県教育センターホームページはこちら

https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp
「学校・教職員支援」→「生徒指導・教育相談」のページへアクセス

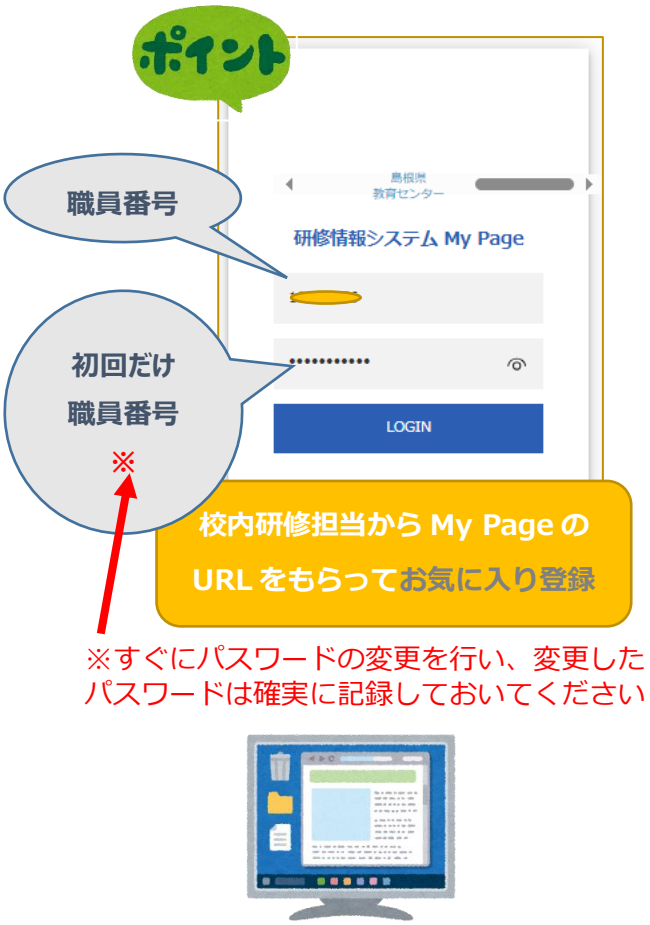
本プログラムの他にも
生徒指導・教育相談に
関する様々な資料が
ダウンロードできます！

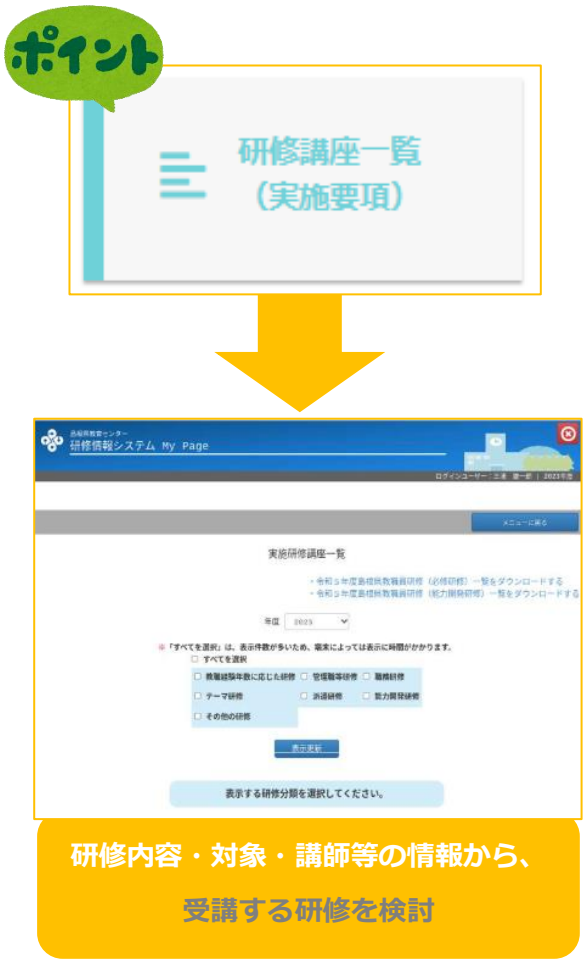
今年度から「研修情報システム」が稼働しています！

今年度から、教職員研修に係る手続きが、「研修情報システム」を介して一元的に行われるようになっています。これは、①免許更新制の発展的解消にともない、各自の研修履歴を保全し、研修履歴を活用した「令和の日本型学校教育を担う新たな教職員の学びの姿」の実現に資すること、②「働き方改革」にもつながる、デジタルによる手続きの効率化、等をめざして導入が進められたものです。今年度以降、各職員の研修履歴はシステムに蓄積され続け、どこに異動となっても履歴を基にした育成のための対話と奨励に活用が期待されています。

稼働初年度となる今年度の運用においては、操作等で、ご不便をおかけすることも少なくありませんでしたが、稼働半年を過ぎ、「デジタルによる効率化のメリット」が少しずつでも実感していただけているのではないでしょうか。

今年度の研修の多くが終了した今、来年度のスムーズなシステムの活用開始に効く、「年度当初に受講希望者が行う主な操作のポイント２つ」についてお伝えします。（※令和５年１１月現在の仕様）





◆ 今後も、研修情報システムが「教職員の資質・向上」や「働き方改革」に少しでもつながっていくよう、改善を図っていきます。システムに関するお問い合わせは、島根県教育センター（研修情報システム担当：0852-22-5865/5866）まで、お気軽にお電話ください。

※OJT 研修　日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修
　Off-JT 研修　　日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身につける研修

学びの主人公は子ども！ スムーズな学びへのアクセスを！

島根県教育センター教育相談スタッフ 特別支援教育セクション

2021年1月、文部科学省中央教育審議会で、学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進めるために、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められると提言されてから、約2年が経ちました。皆さまの学校ではどのような取組をされているでしょうか。特に、「個別最適な学び」については、一人一人の子がその子に合った方法で、その子に合った目標を達成できるような取組が必要になります。

当セクションでは、「通常の学級」にスポットを当て、特別な支援を必要とする児童生徒の理解を深め、児童生徒とのかかわり方や支援について学ぶために、2つの能力開発講座を実施しました。ここでは、「個別最適な学び」をキーワードとして講座を振り返ります。

【1215】特別支援教育専門講座

演題：「子どもの実態把握をもとにした ICT 機器を活用する方法や具体的な取り組みについて」
講師：広島大学学術院准教授　氏間　和仁

学習の目的に迫るための方法等の選択肢として、ICT 機器があります。その利用の段階でこんなことはありませんか？

決まったアプリしか使えない。

キーボード入力しか認められない。

使うタイミングが決まっていて、調べたいと思った時に使えない。

子どもが使いたいと思った時に、子どもの使いやすい方法で、目的に最短距離で到達できるように環境を整えていきましょう。

- 新たなアプリを使わなくても、Word や PDF などの普段使っているもので支援ができる。
- ICT を活用することで、本人が今後も活用できるようにしていく。
- 支援方法の情報収集だけではなく、児童生徒に合った方法を教員が探りながら、児童生徒と一緒にオーダーメイドとしての方法を見つけていく。

【1299】すべての教職員に役立つ！ 支援につながる子どもの理解講座

演題：「子どもの願いに寄り添うための教師の基本姿勢について」
講師：東京都杉並区立済美教育センター指導教授　月森　久江

境界知能の子ども（緩やかに発達する子ども）、自閉スペクトラム症や注意欠陥多動性障がいのある子どもについて、自分ではどうすることもできない生まれもった特性であるという認識をもつことが大切です。

その上で、授業において支援を考える視点はこの3つです。子どもの実態に応じて、この視点に立って支援を考えてみましょう。

〇授業における支援を考える視点

- ①「情報の提示（教師の発問など）」
- ②「情報を基に考える時間（対話による学びの工夫）」
- ③「考えたことを表現する（表現の仕方の工夫）」

このように、能力開発講座を振り返ると、一人一人の得意なことや苦手さを認めつつ、個々の学びを保障するための支援を行っていくことの大切さが分かります。そして、実現の基盤は、何といっても「学級づくり」にあると考えられます。

児童生徒にとって、「誰にとっても分かりやすい」教室でしょうか？
児童生徒にとって、ストレスの少ない「安心して過ごせる」教室でしょうか？

このように、教室環境や学級の雰囲気を整えていくことによって、一人一人の「違い」ではなく「個性」として捉えられ、お互いを認め合いながら、学びやすい方法で学習を行うことができますね。2学期の終わりにあたって、担当している学級の様子を振り返ってみましょう。